



## ◆プロジェクトの概要

- 活動海域は静岡県榛南地域(御前崎市・牧之原市・吉田町の2市1町)です。かつては国内最大級のカジメ・サガラメ藻場が形成されていましたが、平成初期の磯焼けにより藻場が消滅してしまいました。
- 平成8年度に南駿河湾漁協(当時は榛南5漁協)と関係市町で榛南地域磯焼け対策推進協議会を組織し、藻場再生活動を開始しました。平成21年からは榛南磯焼け対策活動協議会も活動に加わり、母藻投入・種苗移植・藻場回復状況のモニタリング調査・藻食性魚類の除去等を実施しています。

## ◆プロジェクトの特徴・PRポイント

- これまでの活動により、約870haのカジメ藻場を回復しています。この結果、減少していた貝類やアオリイカ等の回復がみられているなど、本活動は、「地球温暖化の抑制」のみならず「生物多様性の向上」にも貢献します。
- さらなるカジメ藻場の回復と、地域の特産品だったサガラメの復活に向けた活動を拡大することで、「地球温暖化の抑制」や「生物多様性の向上」、さらに、20年前に途絶えてしまった潜水器漁業(アワビ漁等)の再開による「水産振興」を目指します。



種苗移植



海岸に打ちあがるカジメ



回復したカジメ藻場

## ◆2023年活動報告

- 当地区の海藻を利用した「海藻万華鏡教室」を開催。海藻万華鏡作りを通じて地元の海で起こっている「磯焼け」について解説、ブルーカーボンの重要性についても説明しました。
- クレジット購入企業を対象とした「母藻の投入体験」を実施。参加者は生分解性スポアバッグに思い思いのメッセージを書き入れ、サガラメ成体を詰めて海中に投入しました。
- 水中ドローンによるモニタリングを実施。これまでダイバーによるモニタリングを実施してきましたが、広大な藻場面積を正確に把握するため、初めて水中ドローンによるモニタリングを行いました。



海藻万華鏡教室の様子



参加者が見たきれいな模様



サガラメが充填されたスポアバッグ



スポアバッグを海中に投入